

a 学校教育目標	自らをきりひらく たくましい児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 主体的・協働的に取り組み、やりぬく児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 地域とともに歩み、児童が豊かに成長する安心と信頼のある学校
----------	---------------------	----------------------	---

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	基礎的・基本的な知識及び技能をはじめ、学ぶ意欲や思考力、表現力等の確かな学力の育成を図る。	(1)基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。	○ドリルや各種学力テストを通して個の課題を把握し、R-PDCA(調査・計画・実践・評価・改善)に基づく学習指導を組織的に行う。	・NRTについては、各学年の設定した目標偏差値を達成した児童の割合 ・CRT到達度(全国平均+10P)達成の児童の割合 ・各教科(国語科・算数科・理科)学期末まとめのテストで85%以上を到達した児童の割合	90% 90% 85%	65% 86% 86%					4	1	・毎年全児童の学力を充実させる「木原チャレンジタイム」の取組は素晴らしい。継続してほしい。 ・R80の取組をさらに進めて、児童の自己肯定感を高めてほしい。 ・目標値の設定について、学校の前年比ではなく、市内、県、全国の値を比較検討し設定する方がわかりやすい。 ・自己表現対応として、5WIHでまとめる活動をするとうい。		
			○「児童生徒のICT活用の系統表」に基づき、児童が自らICTの特長を理解して意図的に活用できる授業を計画・実行する。 ○児童が時間・場所・学習内容により自分で選びICT機器を自由に活用できる機会を保障する。	・デジタル教科書の活用や思考ツール、スライド等を活用させながらの授業の実働 ・児童アンケートで「ICT活用のよさ」や「どう活用できているか」「自分たちが中心となってICTを活用して学習を進められているか」など肯定的に回答した児童の割合	100% 90%	100% 98%	100% 98%	96.7%	B	・CRTについては、全国平均+10pの児童の割合は16項目中11項目で達成値は68.7%であった。 ・学期末テストでは、算数科(88.9%)、理科(92.3%)において目標値を達成できた。しかし、国語科においては83.3%であった。書かれている内容を大まかに捉えたり、大事な言葉を抜き出して要約したりすることに課題が見られた。3教科の達成値平均は88.2%であった。 ・デジタル教科書については、日常的に活用できた。思考したことをICTを活用して表現する学習も進められている。 ・児童は、「写真を撮る」「調べ学習」「文でまとめる」「漢字の練習」「タイピング」「学びをまとめる」「ミライシード」「思考ツール」等で活用することができている。				・達成できなかった教科の理科については、理科の用語を正しく定義できるように、実験や観察の結果とつなげて考えさせる。 ・単元末テスト前のプレテストで学力到達状況を十分に把握したうえで、課題がある内容についてはWeb問題やドリル・ワーク等で復習すること徹底し、学力の定着を図る。 ・個の課題に即して、簡単な言葉で言い換えて意味理解を図ったり、具体物操作を行ったりする活動により、イメージを広げる取組を継続していく。 ・ICT活用の系統表をもとに、各学年の実態に応じたスキルは身に付けてきている。次年度に向けて、児童が興味をもったスキルについては積極的に活用させ、文房具としても活用をさらに進めていく。	
			○学習者が主体となる授業づくりを行う。 ・「複式学級指導の手引き」の研修(4月) ・「きはら学びのステップ」児童参観交流会(毎学期ごと) ・指導者のファシリテートを重点課題とする授業公開(年間2回以上)	・児童アンケートで表現力関連アンケートにおける肯定的評価の割合 ・児童アンケートで主体性・協働性関連アンケートにおける肯定的評価の割合	90% 90%	95% 94%	94% 94%	104% 104%	A A	・「理由をつけて話しています。」「については「よくできている」と回答した児童が72%であった。相手に伝わるように工夫して話すことについては自信がもてない児童がいた。 ・一人では難しくても自分たち(みんな)で学びを進めるといった意識は高い傾向にある。 ・「振り返りを書くことが好きです。」「の項目については、達成値が67%から72.2%に向上した。また、「結論先行、理由や根拠をつけて書いています。」「についても72%から88.9%へと高まった。しかし、「振り返りを書くことで自分の学びをうまく伝えることができます。」「においては、83.3%の達成値で、前回よりも下回った。				・今後も少数人数を生かしての表現活動を授業毎に取り入れ、アウトプットの学習を常に保障していく。 ・児童同士が参観し合う「学びのステップ交流会」については「学習リーダーの役割」と「学び方」に焦点化し、自分の学びへ生かす振り返りとなるようにする。日々の授業での取り組みとして徹底し、定着を図る。 ・R80では、引き続き使用する接続詞を発達段階に応じて固定したり数を絞ったりしながら取り組ませ、論理的な思考力を高めていく。 ・R80の交流を通して、なかなか書けない児童も友達表現から学び、自分の表現に取り入れられるようにしていく。 ・結論先行型や理由や根拠をつけて話すことを大切に言語活動を日常的に取り入れていく。	
			○R80(まとめ・振り返り)の目的・意味を学習者と共有し、行事や授業時間ごとに実働する。 ・2～6年生は、書くことを中心にして実働する。 ・1年生については、1学期は状況を把握しながら、話すことからの振り返りや内容選択で思いを表出する振り返りを実働する。	・児童アンケートで振り返り関連アンケートにおける肯定的評価の割合	90%	74%	78%	87%	B					5	・小規模校を生かして、各個人の伸びを評価する方がよいのではないか。 ・読書は、冊数ではなく、内容をいかに理解しているのかが大切である。 ・木原小の子供達を見ていると、学校において素晴らしい教育がなされていると思う。 ・先生方の教育方針を高く評価している。
豊かな心の育成	自己を高め、他者とよりよく関わり、協調しようとする豊かな心を養う。	(1)自ら行動し、やりぬく意欲と自信を育てる。	○マラソン、なわとび、暗唱、読書の自己の目標を設定し、目標に向かって挑戦する「木原チャレンジ」を継続する。 ○話し合い活動や委員会活動、縦割り掃除等、目標をもって自立的に取り組む、関わり合い、協力し合う場を設定し、自己の変容を振り返らせる。	・児童アンケートで「木原チャレンジ」の目標達成、「目標を決めてやり切る」への肯定的評価	100%	97.2%	100%	100%	A	・児童全員が「木原チャレンジ」の目標達成について肯定的に回答した。チャレンジタイムを意識して取り組む姿がある。暗唱については、イメージを浮かべて覚えたり音読リズムの繰り返しで覚えたりして、工夫しながら暗唱する児童の姿が増えた。手立てを工夫することで、児童は目標を達成することができた。読書については、2学期当初から読書環境が整ったうえで、「おすめシート」へのシール貼りや、幼児や異学年児童への読み聞きの実施など、読書意欲が向上する取組を行ったことで、目標を達成することができた。	・読書朝会で学年に合った本を紹介したり、教室に国語科の教材と関連した図書を置いたりする等、本に親しみをもたせることができるように工夫していく。また、児童による読み語りも継続して実施する。 担任が木原チャレンジの進捗を確認し、肯定的な声かけを行う等、木原チャレンジが途切れることのないように取組をすすめていく。	4	1	・地域での太鼓踊りなど、積極的に参加型にして協調性と責任感を育てる。 ・目標を達成できたかどうか児童にも一目でわかるような表し方の工夫があるとうい。(レーダーチャート等) ・評価が児童アンケートのみとなっているが、担任の目から見た評価も加えた方がよい。	
		(2)他者を思いやり、協働する態度を育てる。	○地域の素材を生かした特色ある授業づくりを充実させる。また、地域の人や文化(木原太鼓踊り)、行事(とんど祭り)等とつながる「ふれあい活動」を推進させ、地域との交流やお世話になった方々への感謝の気持ちを伝える場を設定する。	・児童アンケートで、「木原町の好きなところ」や「地域の行事への参加」「楽しかった地域との交流」などに記述等で回答する児童	100%	97.2%	100%	100%	A	・児童全員が、木原町の好きなところについて、記述で回答することができた。また、地域との交流では「体育参観日」や「ミニコンサート」「マルシェ」、「授業の中での地域とのかかわり」「とんど祭り」等、様々な地域との交流を思い出深いと回答できた。木原の特産品である「わけぎ」を使用した食育教室を実施する等、地域の特色を生かした活動を家庭と連携して行った。	・引き続き、特色ある地域の学習材や人材を活用した授業づくり(ふさと学習)を行う。また、地域や地域行事のよさに目を向けにくい児童に対しては、教師が積極的に「今までの地域の行事は何かあったかな?」「～なところ」が「すてきなね。」などの声かけを通して、気づきを増やすことができるようにする。	4			
健やかな体の育成	健康でたくましい心身の育成を図る。	(1)健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。	○「健康生活チャレンジウィーク」や「歯みがき週間」を実施する。歯みがきの方法や意義について指導し、児童が主体的に歯みがきの方法を工夫することによって、歯みがき習慣の定着を図る。	・歯みがきの習慣を身につけた児童の割合(平日朝・夜)	100%	98.2%	98.4%	98.4%	B	・児童全員が、保健朝会や参観日の歯科指導の内容をふまえて、主体的に目標を設定し、歯みがきカレンダーや健康生活チャレンジウィークに取り組むことができた。また、登校後や下校時に個別に声かけを行うことで、ほとんどの児童が平日の朝・夜に毎日歯みがきをすることができた。児童全員が臨時の歯科検診に向けて主体的に歯のみがき方を工夫することができた。	・歯みがきカレンダーやチャレンジウィークの取組や歯科指導を継続して行い、歯みがき習慣の定着を図っていく。また、9月の参観日で行った学校歯科医による親子での歯科指導のような家庭と連携した取組をすすめていく。美化・保健委員会による保健朝会を行ったり、学級担任及び養護教諭が個に応じた指導を行ったりしていく。	5	5	・歯の健康に関しては最近の子は歯並びが悪くなったり、あごの力が弱くなったりしていると言われるのでこうした面も改善する目標に加えたらよい。 ・放課後遊びをコミュニティスクールで実現できないか。 ・ボール運動を通して投げ・蹴る・受ける・走るを取り入れ楽しくスポーツを通して運動能力の向上に努める。	
		(2)運動への意欲を育て、体力の向上を図る。	○「木原チャレンジタイム」を設定し、目標を決めて継続して運動に取り組ませる。また、体育科の授業では、サーキット運動や主運動につながる運動を工夫し、体力の向上や運動への意欲を高める。 ○児童会を主体として「みんなあそび」を実施したり、外遊びの呼びかけを行ったりする。また、体育朝会で楽しみながら体を動かせる運動を紹介し、運動に親しみをもたせる。	・児童アンケートで「運動すること」「体育科の授業」への肯定的評価	100%	100%	100%	100%	A	・児童全員が声をかけ合って、体育科の授業で様々な運動をすることができた。また、児童会を主体とした「みんなあそび」を計画的に実施し、運動に親しみを持たせた。今後の「みんなあそび」での活動内容について、児童全員が記述回答をすることができた。「木原チャレンジタイム」では、児童全員が自分で設定した目標に向かって、毎日取り組むことができた。	・体育科の授業では、ペアでの柔軟運動を取り入れ、楽しく授業に入れるような活動を取り入れていく。また、ボール運動の際には、全員が楽しく取り組むためのルールを考え、ゲームを行うなどの工夫を継続していく。児童会主体で「みんなあそび」を実施したり、外遊びをするように声かけを行ったりして、運動に親しみをもたせる。	5			
信頼される学校の形成	安心と信頼のある学校を創る。	(1)保護者・地域の学校への理解を深める。	○学校・学級だよりの内容を工夫し、計画的に発行して(学校だより月1回、学級だより月2回以上)、地域・保護者に発信する。 ○保護者・地域の方と連携・協働する「ふさと学習」を充実させる。	・地域、保護者アンケートでの肯定的評価	90%	100%	100%	111%	A	・学校だより、学級通信を定期的に発行し、情報発信に努めることができた。 ・ふれあいとんど祭りでは、保護者、地域と連携する中で、地域を愛し、伝統行事を引き継いでいこうとする児童の思いを育むことができた。	・今後も定期的な学校だより、学級だよりの発信を行い、学校の取組に理解と協力を得られるようにしていく。また、コミュニティスクールの実働に向けて、地域と連携を図り、太鼓踊りやとんど祭り等のふさと学習がさらに深まるようにしていく。	5	4	1	・目指す児童像を明確にして、コミュニティスクールに取り組む必要がある。 ・明るく楽しく元気を念頭に地域と共に推進する。 ・地域やPTAのアンケート評価だけではなく、学校も自己評価する。 ・安全面での改善項目、業務面での改善項目を具体的に記載してほしい。
		(2)安心・安全な学校づくりを推進する。(不祥事ゼロ)	○「木原小セーフティガード」の活用や不祥事防止研修の工夫により、安心・安全に対する職員の意識を継続・強化する。 ○業務改善を推進するとともに、目標の共有と協働により、職場の同僚性と教師のウェルビーイングを高める。	・「木原小セーフティーガード」目標値(110%)達成(直近)職員 ・地域、保護者アンケートでの肯定的評価	100% 90%	100% 100%	100% 100%	100% 111%	A	・毎月の不祥事防止委員会では、学校の安心・安全のための点検を行い、危険箇所等発見した際は、迅速に関係機関と連携を図り対応した。 ・また、不祥事防止研修を工夫し、職場の同僚性を高めるとともに、職員間で目標を共有し教育活動に取り組むことができた。授業時数の適正管理を進め、分掌の仕事や学級事務、授業準備等の時間を保障することができた。	・セーフティガードを活用し、安全・安心な学校作りへの取組を進めている。また、校舎、プール等の老朽化に伴う修繕に関しては、引き続き関係機関と連携をとりながら進めていく。日々の業務を改善の視点を持って再度検討していく。	4			

【j:自己評価 評価】
A: 100≦（目標達成） B: 80≦（ほぼ達成）＜100
C: 60≦（もう少し）＜80 D:（できていない）＜60

【学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。